



長野県南佐久郡 井出 亨さん

昔から使い続ける理由は、今でも効果が変わらないから。

日本最大級のレタス産地として知られる長野県南佐久郡。この地で代々農業を営む井出さんは、現在レタス8haのほか、はくさい、カリフラワー、グリーンボールなど延べ10haの農地を経営。その多くは地元のJA長野八ヶ岳を通じた契約栽培となっており、レタスの日量は400ケースにも及びます。

高品質のレタスを安定供給するため、1日に1度は圃場を見て回り異常がないか確認するという井出さん。とくに「レタスで最も注意が必要」というアブラムシには、常に目を光らせています。そのアブラムシ対策に、井出さんがお父様の代から使い続けているのがハクサップ水和剤。現在も1000倍液を10aあたり300ℓ、ブームスプレーヤーで散布されています。

「農業に関することはすべて父親から教わりましたので、ハクサップ水和剤に関しても父の教え通りずっと使っています。もちろん効果がなければ使いませんが、今でも効き目は

とても安定している。そもそも昔から廃れずにあるということは、ちゃんと効果があるということですからね。」

アブラムシ類に効果があるとされる新剤が次々と発売されるなか「一度散布すれば7日前後はしっかり抑えてくれるし、他の剤を検討したことはありませんね」と、絶大な信頼を寄せられている井出さん。4年前に地域でアブラムシが大発生した際も、井出さんの圃場はほとんど被害にあわなかったと言います。最後に経営者の視点で「経済性に優れているのも魅力です」と、ハクサップ水和剤のメリットを語っていただきました。

井出さんのレタス防除カレンダー

